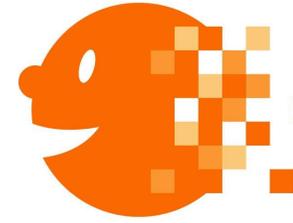


つくろう!守ろう!安心できる情報社会



**DIGITAL
POSITIVE
ACTION**

リテラシー 全体像の 解説書

身につけるべき能力および到達レベルを解説



本解説書の目的と対象者

目的

リテラシー教育の担い手のみなさまに、リテラシー教育を通じて身につけるべき能力や到達レベルを共有すること

対象者

リテラシー教育の担い手のみなさま

- 教材を作成する方
- 教育プログラムを設計する方
- リテラシー教育に携わる方

目次

ICTリテラシーの全体像(5つの能力領域)

ICTリテラシーの22の能力と到達レベル

到達レベルの評価

ICTリテラシーの全体像（前提）

デジタル社会において、身につけるべき**5領域22能力**を解説しています

- 諸外国でリテラシーの指標として一般的に用いられる**DigComp**※を参考に策定

ICTリテラシー教育内容や教材を検討される際は、

- 5つの能力領域のうち、どの分野を教えたいのか
- 各能力について、どのレベルまで到達することを目指すのか

などを、ご検討ください

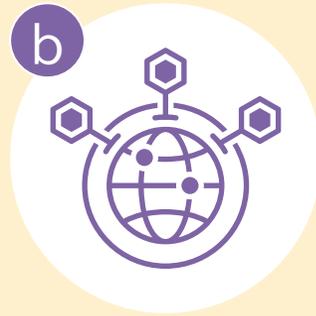
※**DigComp**: 欧州委員会が作成した、デジタル社会への参加に必要な能力定義。仕事、学習、プライベートなどで必要になるデジタル能力を定義

ICTリテラシーの全体像（ICTリテラシーの5領域）



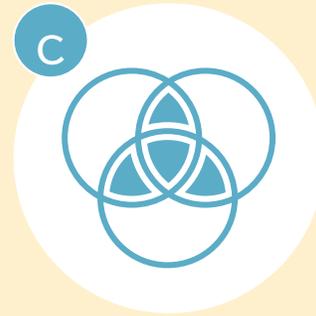
取得管理

データや情報を
検索・管理する力



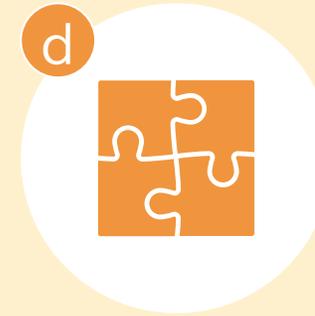
安全確保

自分の身を
自分で守る力



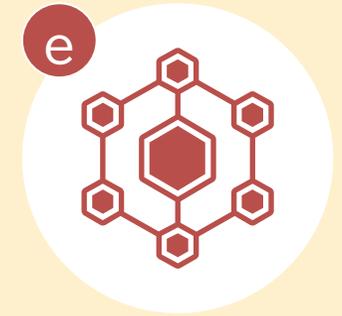
他者・社会との
コラボ

他者や社会と
関わる力



作成編集

デジタル
コンテンツを
作る力



活用

デジタル技術で
困りごとを
解決する力

5領域に対応する能力の具体例（1/5）

a

取得管理



データや情報を検索・管理する力

- インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探すための方法を理解する
- インターネットでは自分が好きな情報や同じ意見に触れやすいことを理解し、本当に信頼できる情報かを確認する
- 見つけたデータや情報を保存し、整理して管理する

具体的には・・・

ウェブを使った検索ができる

- 仕事を探すときは求人ポータルサイトを使うなど、目的に合った検索サイトを使い分けられる
- 詳細条件を設定して検索することで、自分に適した情報を絞り込める

情報の信頼性を分析できる

- ウェブ検索の情報のうち信頼できる情報と信頼できない情報を取捨選択できる
- 怪しい情報は一次情報を確認できる
- SNSで意見を発信すると同じような意見が集まりやすくなることを理解している

5領域に対応する能力の具体例（2/5）

b

安全確保



自分の身を自分で守る力

- 商売目的で自分の個人情報が使われることがあるから、スマホ・PCや情報を守る方法を知っておく
- インターネットにある違法・有害情報やニセ・誤情報に気をつけて、どう対処するかを学ぶ
- インターネットやスマホ・PCを使うときに、体や心の健康を保つ方法を知る

など

具体的には・・・

ニセ・誤情報のリスクと見分け方について理解している

- ディープフェイクを使った詐欺広告を見分けることができる
- 拡散されたSNS投稿を見つけても、情報源や他の情報などを確認し、内容の妥当性を判断できる

デジタル機器の使いすぎや、心理的ストレスを防止する

- スマホの使いすぎなどを防止するため、利用時間の制限機能を有効にする
- SNSは頻繁に通知を送って利用頻度を高める仕組みがあることを理解し、通知をオフにするなどして常にチェックし続ける習慣をなくす

5領域に対応する能力の具体例（3/5）

C

他者・社会とのコラボ



他者や社会と関わる力

- デジタル技術を使って、他の人とコミュニケーションを取ることができる
- デジタルツールやサービスを使って、社会の問題を解決したり、役立つことをする
- インターネットで交流するとき、いろんな背景を持った人々がいることに気をつけ配慮する

など

具体的には・・・

オンライン会議やクラウドサービスなどで、他者と情報を共有できる

- オンライン会議では、デジタル技術への知識や年齢などに違いがあることを理解して、会議の進行スピードなどに配慮して進行する
- クラウド上でファイルを共有する際は、「閲覧のみ」「編集可能」など権限を適切に設定して利用する

デジタルサービスを通じて社会参加ができる

- マイナポータルを使って行政サービスを便利に使う
- 地域のHPを見て、情報を収集し、ボランティア活動に参加する

5領域に対応する能力の具体例（4/5）

d

作成編集



デジタルコンテンツを作る力

- デジタル技術を使って、絵や動画、音楽などを作って、自分を表現する
- いろんな情報を組み合わせて、新しい知識やコンテンツを作る
- 他の人の作ったものを使うとき、ルールや法律を守る大切さを理解する

など

具体的には・・・

デジタルコンテンツの
作成・編集ができる

- 文章制作ソフト（例：Wordなど）を使って文章が書ける
- ファイルの種類を変換できる（例：WordからPDFへ変換）
- 生成AIによる文章生成や画像生成ができる

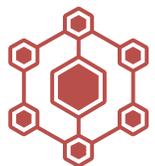
著作権について理解し、
適切に利用できる

- DVDなどのデジタルコンテンツは著作権で保護されており、無断での共有は違反であることを知っている
- 他の人が書いたブログの文章を自分のサイト内で利用したい場合、引用元を示す必要があること知っている

5領域に対応する能力の具体例（5/5）

e

活用



デジタル技術で
困りごとを解決する力

- デジタルツールを、自分がやりたいことに合わせて調整して使う
- デジタル技術で問題が起きたとき、その問題を見つけて解決する方法を考える
- デジタル技術を使って、自分や社会の問題を解決する方法を学ぶ

など

具体的には・・・

各ツールのメリット・
デメリットを理解し、ニーズ
に合わせて取捨選択できる

- 迅速なやり取りが必要な場合やリアルタイムの情報共有はメッセージ・チャットツールを用い、正式な文書や詳細説明が必要な場合はメールを用いる、などの使い分けができる

様々な社会課題を解決し
得るデジタルサービスを
利用している

- 遠隔地に住む学生向けのオンライン学習プラットフォーム
- どこからでもアクセス可能なオンライン診療アプリ
- SNSを通じた災害情報のリアルタイムの確認

目次

ICTリテラシーの全体像(5つの能力領域)

ICTリテラシーの22の能力と到達レベル

到達レベルの評価

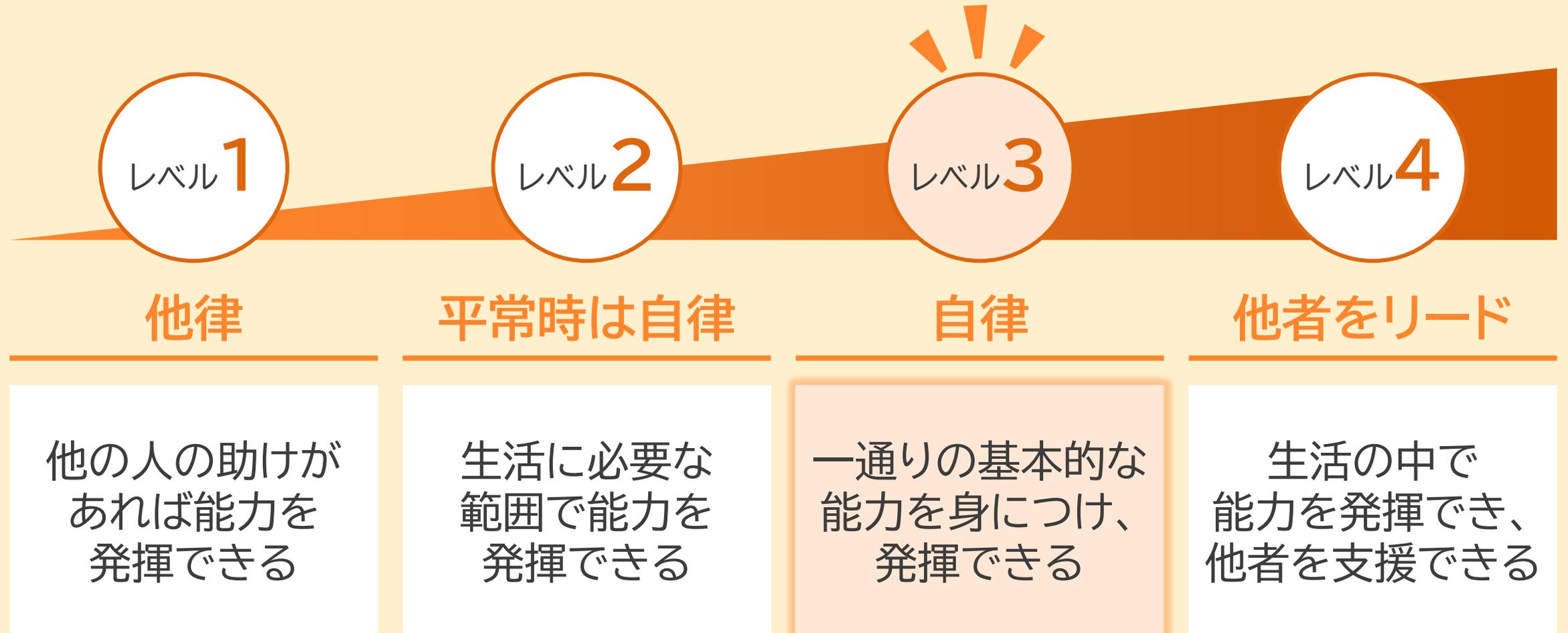
ICTリテラシーの全体像（ICTリテラシーの22能力）

5の能力領域

22の能力

| | | |
|------------------------|-------------------|---|
| a 取得管理 | データや情報を検索・管理する力 | a-1 インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探すための方法を理解する a-2 インターネットでは自分が好きな情報や同じ意見に触れやすいことを理解し、本当に信頼できる情報かを確認する a-3 見つけたデータや情報を保存し、整理して管理する |
| b 安全確保 | 自分の身を自分で守る力 | b-1 商売目的で自分の個人情報が使われることがあるから、スマホ・PCや情報を守る方法を知っておく b-2 インターネットにある違法・有害情報やニセ・誤情報に気をつけて、どう対処するかを学ぶ b-3 インターネットでの振る舞いが問題になることがあるから、どうしたらトラブルにならないかを考えながら使う b-4 インターネットやスマホ・PCを使うときに、体や心の健康を保つ方法を知る b-5 デジタル技術が環境にどう影響するかを考え、環境を守るためにできることを理解する |
| c 他者・社会とのコラボ | 他者や社会と関わる力 | c-1 デジタル技術を使って、他の人とコミュニケーションを取ることができる c-2 デジタル技術を活用して、他の人と情報やコンテンツを共有できる c-3 デジタルツールやサービスを使って、社会の問題を解決したり、役立つことをする c-4 デジタルツールを使って、他の人とインターネット上で一緒に作業を進める c-5 インターネットで交流するとき、いろいろな背景を持った人々がいることに気をつけ配慮する c-6 自分や他の人の個人情報を理解し、大切に管理する |
| d 作成編集 | デジタルコンテンツを作る力 | d-1 デジタル技術を使って、絵や動画、音楽などを作って、自分を表現する d-2 いろいろな情報を組み合わせて、新しい知識やコンテンツを作る d-3 他人の作ったものを使うとき、ルールや法律を守る大切さを理解する d-4 コンピュータをうまく動かすために、必要な指示を出す |
| e 活用 | デジタル技術で困りごとを解決する力 | e-1 デジタルツールを、自分がやりたいことに合わせて調整して使う e-2 デジタル技術で問題が起きたとき、その問題を見つけて解決する方法を考える e-3 デジタル技術を使って、自分や社会の問題を解決する方法を学ぶ e-4 自分や周りの人のデジタル技術を使う力を見直し、さらに良くする方法を考える |

能力の到達レベル（4段階）



「自律的にICTを活用できるレベル」をレベル3と位置づけています

a 取得管理の到達レベル

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|--|--|--|---|
| a-1 インターネット検索の仕組みを知って、必要な情報を探するための方法を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、自ら必要な情報を把握し、簡単な検索ツールを利用して検索を実行できる ● 自らの知っている検索ツールをとりあえず利用するだけで、検索ツールを利用する際のアルゴリズムや商業的観点について把握はしていない | <ul style="list-style-type: none"> ● 簡単な検索ツールであれば他者の助けを必要とせず利用できる ● 日常生活の中で必要となる検索の方法は理解しているものの、インターネット検索の特性に対する理解は乏しくその仕組みや危険性について理解できていない | <ul style="list-style-type: none"> ● 複数の検索ツール、検索エンジンを目的に合わせて使い分けられる。また、新しい検索ツールについても自ら調べて利用方法を理解できる ● インターネット検索の仕組みや背景にある商業的観点などについて基礎的な内容を理解しており、必要に応じて検索方針を変更・アップデートできる | <ul style="list-style-type: none"> ● 検索ツールにおけるさまざまなオプションを理解した上で、その場に合わせた最適な形で利用できる。また、最新の検索ツールについても積極的に理解を行い、使い方を学習できる ● インターネット検索におけるパーソナライゼーションや商業的観点について幅広く理解しており、情報過多に陥ることを避けながら検索を実行するための方法論を持っている。また、その内容について他者を支援できる |
| a-2 インターネットでは自分が好きな情報や同じ意見に触れやすいことを理解し、本当に信頼できる情報かを確認する | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば情報源を分析できるが、個人では情報源の正しさを評価できない・評価する必要性を認識していない ● 他者の助けがあれば情報を分析できるが、個人では情報の正しさを評価できない・評価する必要性を認識していない | <ul style="list-style-type: none"> ● 検索結果や提示された情報の出典を確認することへの重要性を認識しており、明らかに怪しい情報源は見分けることができる ● インターネット上の情報には偽情報・誤情報が含まれることを理解しており、常にではないが情報の正確性に意識を向けて検証することがある | <ul style="list-style-type: none"> ● 検索・表示結果の情報源を分析することの重要性を理解し、一次情報を重視する姿勢を持っている。また、初めて出会った情報源に対しても最低限の分析を実施し、その正確性を検証できる ● エコーチェンバーやフィルターバブルなど検索結果における偏りを理解しており、情報を事実と意見に分けた上で情報の信憑性を分析できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 検索・表示結果の情報源を分析することの重要性を理解し、不慣れなトピックについてもその情報源の正確性を検証することができる。また、その方法について他者を支援することができる ● 検索結果やSNSの表示結果におけるアルゴリズムの特性や商業的な側面について包括的に理解し、常に情報の正確性と特性（意見、広告、事実 など）を分析的に検証できる。また検証する態度を持っている |
| a-3 見つけたデータや情報を保存し、整理して管理する | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあればデータを保存し、取り出すことができる | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上で取得したデータや自ら作成したデータなどをデバイス上に保存し、必要に応じて取り出すことができる ● データの構造的な管理などはできず、表示されたデータの恣意的な表現などの危険性を把握していない | <ul style="list-style-type: none"> ● 状況に合わせて必要な環境に情報を保存でき、必要に応じて外部のオープンデータなどにもアクセスできる ● データを素早く取り出し、分析するために簡易的にデータを構造化して管理できる。またデータの表現における恣意性についても基本的な内容については理解している | <ul style="list-style-type: none"> ● オフライン・オンラインを組み合わせ、適切な場所に情報を保存し、管理している。また、保存・管理の方法について他者にも説明できる ● データベースやデータマイニングソフトなど専門のツールを利用して、情報を構造的に保存できる。また、データの可視化ツールを用いて情報を外部に伝えることができるほか、情報の可視化における恣意性や危険性についても理解し、他者を支援できる |

b 安全確保の到達レベル (1/2)

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|--|--|---|---|---|
| b-1 商売目的で自分の個人情報が使われることがあるから、スマホ・PCや情報を守る方法を知っておく | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、デバイスの保護を含めた簡単な安全・セキュリティ対策を設定できる ● 他者の助けがあれば、個人データを保護するための簡単な対策を実行できる ● プライバシーポリシーの存在について認識できていない | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な範囲でデバイスの保護を含めた簡単な安全・セキュリティ対策を実行しながら、オンライン上での活動ができる ● 個人データの利用について概要を理解しており、簡単な対策を実行できる ● プライバシーポリシーの存在は認識しているが、内容は理解していない | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル空間、オフライン空間双方においての安全・セキュリティ対策について基本的な内容を理解しており、デバイスの保護を含め必要となるセキュリティ対策を実行しながら、安全にオンライン上で活動できる ● 個人データの共有や利用について基本的な利点とリスクを理解しており、適切にデータを管理できる ● プライバシーポリシーの目的とその概要を理解しており、自らの目的に合わせて必要な場面でその内容を確認できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル空間、オフライン空間双方において安全を確保するための対策について網羅的な内容を理解しており、デバイスの保護を含めて適切な対策を実行しながらデジタルツール、デジタルサービスを利用できる。また、その内容について他者を支援できる ● 個人データの共有や利用について網羅的に理解しており、自らのデータを適切に管理しながら必要な場面では他者に提供できる。また、これらの内容について他者を支援できる ● プライバシーポリシーの目的とその内容を幅広く理解しており、自らの目的に合わせて適切に利用できる。また、その内容について他者を支援できる |
| b-2 インターネットにある違法・有害情報や二重・誤情報に気をつけて、どう対処するかを学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ● 偽情報、誤情報の存在や違いについて理解できていない | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上に偽情報や誤情報が存在することは理解しており、常にではないが情報の正確性に意識を向けて検証することがある | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上の偽情報や誤情報の特徴・リスクとその見分け方について包括的な内容を理解しており、不慣れた分野においても必要な対策をとって検証できる | <ul style="list-style-type: none"> ● AIなどの先端技術を用いて作られたディープフェイクなど高度で複雑な偽情報や誤情報に対しても、自らの知識を統合して対応できる。必要であれば偽・誤情報の検証結果を共有する、他者に見分け方の助けとなる支援をするなど社会に貢献できる |
| b-3 インターネットでの振る舞いが問題になることがあるから、どうしたらトラブルにならないかを考えながら使う | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上における危険行動について意識が向いていない。他者の助けがあれば、危険行動を避けられる ● デジタル環境特有の行動規範に対して理解がない、あるいは乏しい | <ul style="list-style-type: none"> ● ネットいじめやインターネット上での不適切な行動にリスクがあることを理解しており、簡単な対策を取ることができる ● 日常生活に必要な範囲でデジタル環境における行動規範を理解している | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上での不適切な行動や、不適切な行動を取りやすくなるという習性について基本的な理解を持っており、自らの行動を顧みることができる。また、オンラインで被害に受けた場合に取りべき対策について理解している ● デジタル環境において求められる基本的な行動規範を理解している | <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上での不適切な行動や、不適切な行動を取りやすくなるという習性について包括的な理解を持っており、インターネットを利用するさまざまな場面で適切な行動を取ることができる ● さまざまな文化的背景の人々が参加するデジタル環境において求められる行動規範について理解しており、他者の権利や文化に配慮した形で行動することができる |

b 安全確保の到達レベル (2/2)

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|--|---|--|---|
| b-4 インターネットや スマホ・PCを使う ときに、体や心の 健康を保つ方法を 知る | <ul style="list-style-type: none"> デジタルツールの利用による健康への影響や危険性について理解が乏しく、依存など過度な利用への対策が取れない | <ul style="list-style-type: none"> デジタルツールの長時間の利用や依存などの危険性について簡単に理解し、簡単な対策は取れている | <ul style="list-style-type: none"> デジタルテクノロジーの利用が健康や幸福、生活へ与える影響や、利用を促進するために企業が採用する戦略などについて基本的な内容は理解している。その上で、危険を回避する形で安全にデジタルテクノロジーを利用できている | <ul style="list-style-type: none"> デジタルテクノロジーの利用が健康や幸福、生活へ与える影響や、利用を促進するために企業が採用する戦略などについて包括的に理解しており、新しいテクノロジーを利用する際にも適切な対策をとることができる。また、その内容について他者を支援できる |
| b-5 デジタル技術と その利用が自然 環境に与える影響 について理解する | <ul style="list-style-type: none"> デジタル技術およびその利用が環境に影響を与えることに理解がない、あるいは乏しい | <ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の環境への影響を配慮してデジタル技術を利用できることがある | <ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の環境への影響を理解し、基本的な範囲では環境への負荷の少ない形で利用できる | <ul style="list-style-type: none"> デジタル技術が環境に与える影響とその対策について幅広く理解し、自ら適切に行動できだけでなく他者にその内容について説明し、支援できる |

C 他者・社会とのコラボの到達レベル (1/2)

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|---|---|--|--|
| c-1 デジタル技術を使って、他の人とコミュニケーションを取ることができる | <ul style="list-style-type: none"> デジタル空間でのコミュニケーションツールについて知らない。他者の助けを得て、自分のニーズに合わせたものを選択できる 他者の助けがあれば、簡単なデジタルツールを用いて他者とコミュニケーションができる | <ul style="list-style-type: none"> 他者とコミュニケーションを取るために利用できるデジタルツールをいくつか把握している。一方で、選択の幅は限られており、常に最適なツールを選択できるわけではない 日常的にいくつかのデジタルツールを用いて他者とコミュニケーションを取ることができる | <ul style="list-style-type: none"> 他者あるいはAIなどとコミュニケーションを取るために利用できるデジタルツールを理解しており、基本的な範囲で必要なものを選択できる。また、SNSやオンラインサービスによるコミュニケーションへの介入についても基本的な内容は理解している リアルタイム、非リアルタイム問わずデジタルツールを用いて他者、AIなどとコミュニケーションを取る方法を理解し、ツールの基本的な機能を利用できる | <ul style="list-style-type: none"> 他者あるいはAIなどとコミュニケーションを取るために利用できるデジタルツールを網羅的に把握しており、日常生活、仕事を問わず幅広い文脈で最適なものを選択できる。また、SNSやオンラインサービスによるコミュニケーションへの介入についても網羅的に内容を理解している 日常生活、仕事など幅広い文脈においてリアルタイム、非リアルタイム問わずデジタルツールを用いて他者、AIなどとコミュニケーションを取る方法を理解し、必要なツールの機能を選択し利用できる。また、必要に応じて他者を支援できる |
| c-2 デジタル技術を活用して、他の人と情報やコンテンツを共有できる | <ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、自分自身が持つ情報やデータを他者に共有できる 他者の助けがあれば、情報共有する際の危険性や配慮について認識できる | <ul style="list-style-type: none"> 簡単なデジタルツールを利用して、自分自身の他のデバイスや他者に情報、データ、コンテンツなどを共有できる 情報を共有する際の権利や信憑性への配慮の重要性を理解し、場合によっては対策を実施できる | <ul style="list-style-type: none"> 情報を共有することに意欲的であり、共有する情報や相手の環境などに合わせて基本的なデジタルツールを用いて共有できる 共有する情報が利用される際のリスクや共有にあたって配慮すべき内容について基本的な内容を理解しており、日常生活の範囲では適切な形での情報共有を実施できる | <ul style="list-style-type: none"> 自らの持つ専門知識や他者に有益な知識を共有する重要性を理解しており、積極的に実施している。その際には共有する情報の種類や相手に合わせて最適なデジタルツールを選択し、利用できる。また、共有の方法について他者に教えられる 共有された情報がAIに利用されるリスクや偽情報・誤情報のリスクなど必要な配慮について網羅的に理解しており、日常生活及び仕事などにおいても適切な対策をとった上で情報を共有している。また、その方法について他者を支援できる |
| c-3 デジタルツールやサービスを使って、社会の問題を解決したり、役立つことをする | <ul style="list-style-type: none"> 他者の助けがあれば、社会活動に必要なデジタルサービスを利用できる 他者の助けがあれば、市民として社会参加に必要なデジタルツールを選択できる | <ul style="list-style-type: none"> 積極的にデジタルサービスを探すなどの態度は取れないものの、日常的にいくつかのデジタルサービスを利用して、社会に参加している 日常生活で利用しているデジタルツールを用いて限られた範囲であっても、社会活動に参加できている | <ul style="list-style-type: none"> 自らにとって有益なデジタルサービスを取り入れながら社会参加しており、必要に応じてそのために必要なツールや証明書の獲得などを実施できている 自身の能力を発揮し社会に参加するために必要なデジタルツールについて基本的な内容を理解し、他者への配慮をしながら社会に参加できる | <ul style="list-style-type: none"> 社会参加においてデジタルサービスを利用することの有用性を理解しており、日常生活のさまざまな場面でデジタルサービスを用いて積極的に情報を収集し、社会に参加している。また、他者がデジタルサービスを用いて社会参加する際のサポートができる 適切なデジタルツールを利用しながら他者と協力し、積極的に市民活動に参加できる。また、その方法について他者を支援できる |

C 他者・社会とのコラボの到達レベル（2/2）

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|--|--|--|---|
| C-4 デジタルツールを使って、他の人とインターネット上で一緒に作業を進める | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、必要なデジタルツールを利用して他者と共同作業ができる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な範囲で簡単なデジタルツールを利用しながら、他者と共同で作業できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル環境において共同作業を行う上で求められる基本的な態度を理解した上で、社会的に広く利用されているデジタルツールを選択し、他者と共同作業を行うことができる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル環境において他者と共同作業を行うことに対して積極的であり、目的に合わせて適切なデジタルツールを評価し選択できる。また、共同作業を効率的に進めるための網羅的な知識を保有しており、他者を支援できる |
| C-5 インターネットで交流するとき、いろんな背景を持った人々がいることに気をつけ配慮する | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル空間において常に同一のコミュニケーションをとっている ● デジタル技術が人々の社会的幸福および社会的弱者の包摂につながることに理解していない、あるいは理解が乏しい | <ul style="list-style-type: none"> ● 実生活でも関わるような範囲においてはデジタル空間においても受け手に合わせたコミュニケーションが取れる ● 社会的弱者の社会参加や幸福をサポートするために利用できるデジタルツールを何かしら理解している | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル環境において他の参加者の文化的、世代的背景などを理解した上で、自らのコミュニケーションを変えることができる ● 社会的弱者を含む幅広い人々が社会に参加するために利用できる基本的なデジタルツールを理解している | <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな文化的、世代的背景を理解した上で、最適なコミュニケーションの方法を選択し、その方法について他者を支援できる ● 社会的弱者を含む幅広い人々が社会に参加するためにデジタルツールが有効であること、またその目的に対して必要な具体的な技術について理解し、他者に教えることができる |
| C-6 自分や他の人の個人情報を理解し、大切に管理する | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルアイデンティティの対象やその内容について理解が乏しい ● インターネット上での自らの活動がデータとして収集されていることを理解していないが、他者のサポートがあればそのリスクを回避する対策を取れる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルアイデンティティの基本的な内容について理解し、自ら作成できる ● インターネット上での自らの行動データがAIやシステムによって収集、分析されることを理解しており、簡単な対策を取ることができる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルアイデンティティの対象となるデータやその利用について基本的な内容を理解し、利点とリスクを考慮した上で自ら作成し、管理できる ● インターネット上での自らの行動データや公開された個人情報などがAIやシステムによって収集・分析されることを理解しており、データの公開範囲や収集されたデータの管理など基本的な対策を取ることができる。また、他者の情報公開においても同じように配慮できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルアイデンティティの対象となるデータやその利用について網羅的に内容を理解し、利点とリスクを考慮した上で自ら作成し、管理できる。これらの内容について他者を支援できる ● インターネット上での自らの行動データや公開された個人情報などがAIやシステムによって収集・分析されることを理解しており、データの公開範囲や収集されたデータの管理など網羅的な対策を取ることができる。また、これらの内容について他者を支援できる |

d 作成編集の到達レベル

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|--|---|---|--|---|
| <p>d-1</p> <p>デジタル技術を使って、絵や動画、音楽などを作って、自分を表現する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、簡単なデジタルコンテンツを制作でき、自らを表現できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 自らの目的に合わせ、何かしらのデバイスを使って簡単なデジタルコンテンツを制作し、自己表現できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 複数のツール（デジタルデバイスやソフトウェアなど）を使い、目的に合わせて学習しながら必要なデジタルコンテンツを制作・編集し、自己表現できる。 また、制作にあたってはアクセシビリティへの配慮ができる | <ul style="list-style-type: none"> ● 様々なデジタルコンテンツの特徴やAIによるデジタルコンテンツ制作技術の発展、アクセシビリティへの配慮などコンテンツ制作に関連する知見について網羅的に理解している。その上で、自らの目的に合わせて課題を解決しながら最適な形式でデジタルコンテンツを制作し、自己を表現できる。 またこれらの内容について他者を支援できる |
| <p>d-2</p> <p>いろんな情報を組み合わせ、新しい知識やコンテンツを作る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、既存のコンテンツや情報を組み合わせ、新しいコンテンツを制作できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活で必要となる簡単な範囲では、自分の力でデジタルコンテンツや情報、ハードウェアを収集し、組み合わせることで新しいコンテンツ・ハードウェアを制作できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 自らの目的に合わせて、必要となるデジタルコンテンツ、情報、ソフトウェア、ハードウェアを理解している。それらを収集し、組み合わせ、デザインプロセスを通して検証しながら、新しいデジタルコンテンツの形にまとめ上げることができる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコンテンツの創造に必要なソフトウェア、ハードウェア、AIや他者の作った既存のコンテンツ、情報などを網羅的に理解し、AIなどによる変更の可能性を考慮してそれぞれを評価できる。 その上で、これらを組み合わせながら自らの目的に合わせたデジタルコンテンツを制作し、またその方法について他者を支援できる |
| <p>d-3</p> <p>他の人の作ったものを使うとき、ルールや法律を守る大切さを理解する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコンテンツ、商品、サービスが知的財産として保護されていることへの認識が少なく、他者の助けがあれば適切な形でオンライン上のコンテンツを使用し、アップロードできる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコンテンツ、商品、サービスの著作権について認識しており、日常的に利用する範囲では著作権に配慮してコンテンツを再利用できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコンテンツ、商品、サービスの知的財産権保護について基本的な内容を理解しており、自らの目的に合わせてデジタルコンテンツを選択し、適切な形で利用できる。 また、自らのコンテンツを共有する際にも保護を施せる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコンテンツ、商品、サービスの知的財産権保護について網羅的に理解しており、常に他者の権利を意識しながら自らの目的にあわせて最適なデジタルコンテンツを選択し、適切な形で利用できる。 また、自らのコンテンツの保護にも意識を向けられるほか、これらの内容に関して他者を支援できる |
| <p>d-4</p> <p>コンピュータをうまく動かすために、必要な指示を出す</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、簡単なプログラミングを実行できる | <ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング言語およびコンピュータプログラムの概要について理解し、日常においてであれば簡単なプログラムを記述し、実行できる | <ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング言語、アルゴリズム、コンピュータプログラムについて基本的な内容を理解し、目的に合わせてプログラミング言語を用いてプログラムを記述し、実行できる | <ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング言語、アルゴリズム、コンピュータプログラムについて幅広く知識を持っており、新しい課題に対してもプログラミング能力を用いて取り組み解決することができる。また、AIなどのシステム開発においてはその影響について十分に配慮できる。 これらの能力について他者を支援できる |

e 活用の到達レベル (1/2)

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|--|--|--|--|
| <p>e-1 デジタルツールを、自分がやりたいことに合わせて調整して使う</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば自らの目的に合わせて、簡単なデジタルツールや利用可能なテクノロジーを認識し、選択できる ● 他者の助けがあれば、利用するテクノロジーを自らの目的に合わせて調整できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な範囲で、自らの目的に合わせてデジタルツールやテクノロジーを選択できる ● 日常生活に必要な範囲で、自らの目的に合わせてデジタルツールやテクノロジーを調整できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 自らのニーズに合わせて利用できるデジタルツールやテクノロジーについて利点や危険性などを含めた基本的な内容を理解しており、必要に応じて適切なものを選択できる ● 選択したデジタルツールやテクノロジーを、その利点や危険性を理解した上で、自らの目的に合わせて調整できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルツールやテクノロジーについてその利点や危険性を含めて幅広く理解しており、自らの置かれた環境・ニーズに合わせて最適なものを選択できる。また、その選択方法について他者を支援できる ● 既存のデジタルツールやテクノロジーを改良・調整する方法について幅広く理解しており、自らの置かれた環境・ニーズに合わせて適切に調整できる。また、その方法について他者を支援できる |
| <p>e-2 デジタル技術で問題が起きたとき、その問題を見つけて解決する方法を考える</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 一人では身の回りにあるデジタルデバイスの操作やデジタル環境の利用時に生じる問題を把握し、特定することが難しい ● 他者の助けがあれば、それらの問題の解決に利用可能な簡単な方法を特定できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な範囲で、身の回りにあるデジタルデバイスの操作やデジタル環境の利用時のよくある問題を特定できる ● それらの問題に対して、定型的な解決方法を選択できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 身の回りにあるデジタルデバイスとその機能、またそれらに生じる一般的なトラブルの原因について理解し、基本的な問題を特定できる ● それらの問題に対して必要に応じてオンライン・オフラインでの情報収集を通して問題を解決できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活で利用するデジタルデバイスやその機能について、好奇心を持って理解を深めようとしている。その上で、それらに生じるトラブルについて原因を幅広く特定できる。また、問題の特定に必要なスキルや方法について他者を支援できる ● 把握・特定した問題に対して、段階的な分析を行いオフライン・オンラインの情報収集を組み合わせ解決できる。また、解決に向けたアプローチについて他者を支援できる |

e 活用の到達レベル (2/2)

| | レベル1 他律 | レベル2 平常時は自律 | レベル3 自律 | レベル4 他者をリード |
|---|---|---|--|---|
| <p>e-3</p> <p>デジタル技術を使って、自分や社会の問題を解決する方法を学ぶ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、社会的・実践的な課題を解決し、新しい知識の創造やプロセスの革新につながる簡単なデジタルツールやテクノロジーを利用できる ● 他者の助けがあれば、社会的問題や実践的な問題の解決にデジタル技術を用いることに前向きになれる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活でのよくある課題を解決するために、一般的なデジタルツールやテクノロジーを利用できる ● 日常生活でのよくある課題を、デジタルツールやテクノロジーを用いて、必要であれば他者と協力しながら解決しようとしている | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルツールやテクノロジーが社会のさまざまな課題を解決しうることを理解し、一般的な課題に対して必要となる技術を選択できる ● デジタルツールやテクノロジーを社会課題解決のための手段として認識し、実際に課題解決に対して前向きに取り組む姿勢を持つ | <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな社会的な課題に対して、多くのデジタルツールやテクノロジーの中から解決に向けて最適な技術を選択できる。また、それらの選択方法について他者を支援できる ● デジタルツールやテクノロジー（AIなどの最新技術も含む）の利用が社会課題の解決に対して果たす役割や、課題解決に向けて取るべき態度・アプローチについて理解している。また、他者にそれらの態度やアプローチについて説明し支援できる |
| <p>e-4</p> <p>自分や周りの人のデジタル技術を使う力を見直し、さらに良くする方法を考える</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 他者の助けがあれば、自らのデジタルリテラシーの向上や知識の更新が必要な箇所を認識できる ● 他者の助けがあれば、AIをはじめとしたテクノロジーの進化に伴って新しく学ぶべき内容を理解できる | <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の中で必要があれば自らのデジタルリテラシーを振り返り、向上が必要な箇所を認識できる。また、簡単な方法であれば自ら知識を更新できる ● AIなどテクノロジーの進化について部分的に理解しており、日常生活に必要な範囲で簡単な方法であれば自らの知識を更新できる | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルリテラシーを維持・向上させることの必要性とその意義について基本的な内容を理解しており、必要に応じて自らのリテラシーを評価しフィードバックを得ることに前向きである。また他者のデジタルリテラシーの向上を前向きに支援する ● AIをはじめとしたテクノロジーの発展と社会への影響について基本的な内容を理解し、自らのリテラシーが必要な箇所を把握している | <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルリテラシーを維持・向上させることの必要性やその意義、デジタルリテラシーの不足によって生じる困難などについて網羅的に理解しており、自らのデジタルリテラシーのレベルを定期的に振り返り、向上させる取り組みを行なっている。また、これらの方法について他者を支援し、他者のデジタルリテラシー課題の把握や向上をサポートできる ● AIをはじめとするテクノロジーの発展について継続的に知識を更新しており、その社会の影響について網羅的に理解している。さらに生涯にわたって知識を更新していくことに対して前向きである。また、他者に対してデジタルの進化に合わせて知識の更新が必要となる箇所を支援できる |

目次

ICTリテラシーの全体像(5つの能力領域)

ICTリテラシーの22の能力と到達レベル

到達レベルの評価

到達レベルの確認

概要

到達レベルを測る確認項目は全部で22問あります。
事前に学習対象者などに対して確認シートと集計シートを配布し、
到達レベルを計測しましょう

活用方法

以下の点を把握し、より学習効果の高い講座の実施や、教材制作に活用ください

- 学習対象者の現在のレベルは何か
- 特にどの能力に不足があり、補うべきなのか

到達レベルを測る確認項目（22問）

| | | |
|---------------------|-----|---|
| a 取得管理 | #01 | 検索エンジンを用いた情報検索やオンライン上の文書内を検索する状況において、必要な情報を素早く見つけるために、どのような単語を使えばよいか知っている |
| | #02 | オンラインで見つけた情報が信頼できるかどうか、批判的に確認できる |
| | #03 | フォルダやタグを使って文書、画像、動画などのデジタルコンテンツを整理し、後からすばやく見つける方法を知っている |
| b 安全確保 | #04 | ソーシャルメディアを含むオンライン上で共有・表示すべきでない個人情報を理解している。 |
| | #05 | インターネット上の情報の中には、フェイクニュースをはじめとして事実に基づかない嘘や偽のものが含まれることを知っている。 |
| | #06 | 他者の写真を公開・共有する前に、その人の許可を得るべきであることを認識している |
| | #07 | デジタル機器に費やす時間を管理する必要があることを認識している |
| c 他者・社会との コラボ | #08 | 自分のデバイスのエネルギー消費を減らす方法を知っている(例: 設定の変更、アプリの終了、無線LANをオフにするなど) |
| | #09 | 状況に応じてどのコミュニケーションツールやサービス（電話、電子メール、ビデオ会議、テキストメッセージなど）を使うべきか知っている |
| | #10 | クラウドサービス（Google Drive、Dropbox、OneDriveなど）を使ってファイルを共有する方法を知っている |
| | #11 | オンラインで購入した商品やサービスの支払い方法を知っている(例: 銀行振り込み、クレジットカード/デビットカード、その他のオンライン決済システムを使用する) |
| | #12 | 共有されたオンラインドキュメントを編集する方法を知っている |
| d 作成編集 | #13 | 状況に応じてオンライン上でどのように振る舞うべきか知っている(例: フォーマルかインフォーマルか) |
| | #14 | 自分のデジタル・アイデンティティとは、オンライン環境において自分を特定するすべてのものであることを知っている(例: ユーザー名、ソーシャルメディア上の「いいね！」や投稿、オンラインで署名した請願書など) |
| | #15 | デジタルテキストファイル（例: Word、OpenDocument、Google Docs）の作成・編集方法を知っている |
| | #16 | 異なる種類のコンテンツ（例えばテキストと画像 など）を組み合わせて新しいものを作る方法を知っている |
| | #17 | 見つけたデジタルコンテンツの著作権やライセンスに関するルールを守るように注意している |
| | #18 | プログラミング言語（Python、Visual Basic、Javaなど）は、デジタル機器にタスクを実行するための命令を与えるために使われることを知っている |
| e 活用 | #19 | 最も一般的なデジタル機器（コンピュータ、タブレット、スマートフォン）の主な機能を知っている |
| | #20 | デジタル機器がオンラインに接続できない理由を知っている(例: 無線LANのパスワードが間違っている、機内モードがオンになっているなど) |
| | #21 | デジタル技術が業務プロセスや製品を革新するための強力なツールとして使用できることを知っている |
| | #22 | デジタル世界の新しいトレンドについて知っており、それが私生活や仕事にどのような影響を与えるか知っている |

確認シート (1/3)

どれか1つに "0" をつけてみましょう

| | | 当てはまる | どちらかという 当てはまる | どちらかという 当てはまらない | 当てはまらない | |
|-----------|-----|---|------------------|--------------------|---------|---|
| a 取得管理 | #01 | 検索エンジンを用いた情報検索やオンライン上の文書内を検索する状況において、必要な情報を素早く見つけるために、どのような単語を使えばよいか知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #02 | オンラインで見つけた情報が信頼できるかどうか、批判的に確認できる | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #03 | フォルダやタグを使って文書、画像、動画などのデジタルコンテンツを整理し、後からすばやく見つける方法を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| b 安全確保 | #04 | ソーシャルメディアを含むオンライン上で共有・表示するべきでない個人情報を理解している | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #05 | インターネット上の情報の中には、フェイクニュースをはじめとして事実に基づかない嘘や偽のものが含まれることを知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #06 | 他者の写真を公開・共有する前に、その人の許可を得るべきであることを認識している | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #07 | デジタル機器に費やす時間を管理する必要があることを認識している | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #08 | 自分のデバイスのエネルギー消費を減らす方法を知っている (例: 設定の変更、アプリの終了、無線LANをオフにするなど) | 3 | 2 | 1 | 0 |

確認シート (2/3)

どれか1つに "0" をつけてみましょう

| | | どちらかというと当てはまる | どちらかというと当てはまる | どちらかという当てはまらない | 当てはまらない | |
|-----------------|-----|--|---------------|----------------|---------|---|
| C 他者・社会とのコラボ | #09 | クラウドサービス (Google Drive、Dropbox、OneDriveなど) を使ってファイルを共有する方法を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #10 | オンラインで購入した商品やサービスの支払い方法を知っている (例: 銀行振り込み、クレジットカード/デビットカード、その他のオンライン決済システムを使用する) | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #11 | 共有されたオンラインドキュメントを編集する方法を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #12 | 状況に応じてオンライン上でどのように振る舞うべきか知っている (例: フォーマルかインフォーマルか) | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #13 | 自分のデジタル・アイデンティティとは、オンライン環境において自分を特定するすべてのものであることを知っている (例: ユーザー名、ソーシャルメディア上の「いいね!」や投稿、オンラインで署名した請願書など) | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #14 | 他者の写真を公開・共有する前に、その人の許可を得るべきであることを認識している | 3 | 2 | 1 | 0 |

確認シート (3/3)

どれか1つに "0" をつけてみましょう

| | | 当てはまる | どちらかという 当てはまる | どちらかという 当てはまらない | 当てはまらない | |
|-----------|-----|--|------------------|--------------------|---------|---|
| d 作成編集 | #15 | デジタルテキストファイル (例: Word、OpenDocument、Google Docs) の作成・編集方法を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #16 | 異なる種類のコンテンツ (例えばテキストと画像など) を組み合わせて新しいものを作る方法を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #17 | 見つけたデジタルコンテンツの著作権やライセンスに関するルールを守るように注意している | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #18 | プログラミング言語 (Python、Visual Basic、Javaなど) は、デジタル機器にタスクを実行するための命令を与えるために使われることを知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| e 活用 | #19 | 最も一般的なデジタル機器 (コンピュータ、タブレット、スマートフォン) の主な機能を知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #20 | デジタル機器がオンラインに接続できない理由をいくつか知っている (例: 無線LANのパスワードが間違っている、機内モードがオンになっているなど) | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #21 | デジタル技術が業務プロセスや製品を革新するための強力なツールとして使用できることを知っている | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #22 | デジタル世界の新しいトレンドについて知っており、それが私生活や仕事にどのような影響を与えるか理解している | 3 | 2 | 1 | 0 |

集計シート

評価方法をもとに、到達レベルを確認してみましょう

| 5領域 | 得点/配点 | 得点率 | レベル |
|--------------|----------------------------|------------------------|----------------------|
| ① 取得管理 | <input type="text"/> / 9点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |
| ② 安全確保 | <input type="text"/> / 15点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |
| ③ 他者・社会とのコラボ | <input type="text"/> / 18点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |
| ④ 作成編集 | <input type="text"/> / 12点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |
| ⑤ 活用 | <input type="text"/> / 12点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |
| 全体 | <input type="text"/> / 66点 | <input type="text"/> % | <input type="text"/> |

到達レベルの計測方法

評価方法

1 各能力毎に得点を集計

- 当てはまる: 3点
- どちらかという当てはまる: 2点
- どちらかという当てはまらない: 1点
- 当てはまらない: 0点

2 得点率※を集計し、到達レベルを評価

※各設問は3点満点。設問数×3点を分母とする

- 得点率 0-29%: レベル1
- 得点率 30-47%: レベル2
- 得点率 48-80%: レベル3
- 得点率 81-100%: レベル4

例: 領域 a

| | | 当てはまる | どちらかという 当てはまる | どちらかという 当てはまらない | 当てはまらない |
|---|-----|-------|------------------|--------------------|---------|
| a | #01 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #02 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| | #03 | 3 | 2 | 1 | 0 |

得点は、3点 + 2点 + 1点 = 6点

得点率
(得点 ÷ 配点)

$$6点 \div 9点 = 67\%$$

到達レベル

- 得点率 0-29% レベル1
- 得点率 30-47% レベル2
- 得点率 48-80% レベル3**
- 得点率 81-100% レベル4

(参考) 到達レベルの評価の例

| | 設問 | ○をつけた選択肢 | 得点 | 配点 | 得点率 | 到達レベル |
|-------------------------|-----|----------------|-----|-------|--------------------|-------|
| a 取得管理 | #01 | どちらかという当てはまる | 2点 | (3点) | 5点 / (9点中) = 56% | レベル3 |
| | #02 | どちらかという当てはまる | 2点 | (3点) | | |
| | #03 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| b 安全確保 | #04 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | 5点 / (15点中) = 34% | レベル2 |
| | #05 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #06 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #07 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #08 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| c 他者・ 社会との コラボ | #09 | どちらかという当てはまる | 2点 | (3点) | 12点 / (18点中) = 67% | レベル3 |
| | #10 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #11 | どちらかという当てはまる | 2点 | (3点) | | |
| | #12 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #13 | 当てはまる | 3点 | (3点) | | |
| | #14 | 当てはまる | 3点 | (3点) | | |
| d 作成編集 | #15 | どちらかという当てはまらない | 2点 | (3点) | 6点 / (12点中) = 50% | レベル3 |
| | #16 | どちらかという当てはまる | 2点 | (3点) | | |
| | #17 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| | #18 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | | |
| e 活用 | #19 | どちらかという当てはまらない | 1点 | (3点) | 7点 / (12点中) = 58% | レベル3 |
| | #20 | 当てはまらない | 0点 | (3点) | | |
| | #21 | 当てはまる | 3点 | (3点) | | |
| | #22 | 当てはまる | 3点 | (3点) | | |
| | 小計 | | 22点 | (66点) | 35点 / (66点中) = 53% | レベル3 |

到達レベル(全体)

得点率

53%

レベル

レベル3

- 得点率 0-29%: レベル1
- 得点率 30-47%: レベル2
- 得点率 48-80%: レベル3
- 得点率 81-100%: レベル4

つくろう！守ろう！安心できる情報社会



発行

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課